

原農場の従業員ら（前列右から2人目が原靖社長）。「なんかんいきいき村」では野菜の直売のほか、総菜などを製造販売している＝南関町



原農場＝南関町

農業法人物語

14

【事業内容】農産物直売所の運営、コメ・野菜生産
【生産規模】コメ3畝、ホウレンソウなどの野菜6畝
【法人設立】1996年4月
【従業員】役員2人、従業員34人
【売上高】約5億円

南関町の特産品センター「なんかんいきいき村」に出店するテナントと、福岡県大野城市の農産物直売所を運営する。ともに店名は「畑の天使」。県内外の農家約750人から入荷し、自社生産も含めて常時50種類ほどの野菜を並べている。原靖社長(55)は県立農業大学校(合志市)の1期生。卒業後に地元農協に4年間勤めた後、バラや高糖度トマトを栽培する農家に転身。約20年前に、農業生産法人を立ち上げた。直売所の運営に乗り出

新鮮野菜 畑から直接届ける

したのは2002年ごろから。07年に「いきいき村」が完成すると、本格的に農作物の直接販売に乗り出した。原社長は、農業を始めた当初から「消費者に直接届けないとこれからの農業経営は厳しくなる」と思い続けていたという。

出荷してもらう農家の販売手数料は「やや高め」だが、その分、パッケージングや陳列などを工夫して売る努力を惜しまない。自慢の野菜を使った総菜や弁当の製造販売も手掛けており、直売所の売上高が全体の9割を占めるまでになった。

自社農場(計9畝)で生産するのはコメやホウレンソウなど約30種類。直売所の品ぞろえを確保するためにさまざまな野菜の栽培に挑戦。出荷が多くなり過ぎた野菜がある場合は、自社生産分を加工用に回すなど「調整役」を担っているという。

福岡県の直売所は昨年10月にオープン。今秋から宅配事業を始める予定で、高齢者や飲食店向けを見込んでいる。

「お客さまが健康になれるような新鮮な野菜を、畑から届ける天使になりたい」。原社長は、「畑の天使」という店名に込めた信条を実践していく。県農業法人協会員。

(前田晃志)

Ⅱ 次回は8月17日付掲載予定